

三島市の取組み状況について

平成28年10月24日

三島市

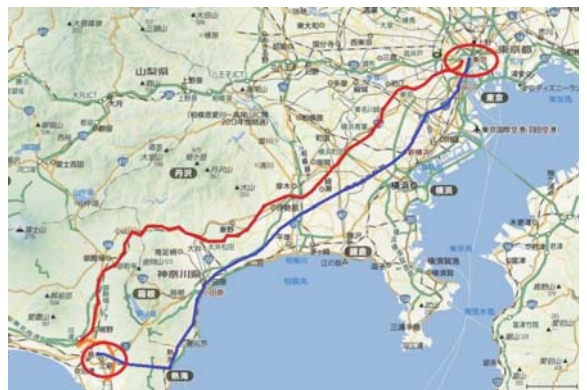


三島市の概要

三島市は、静岡県東部、伊豆半島の中北端に位置し、富士山と箱根山の麓にあって、古くから三嶋大社の門前町、東海道の宿場町として栄えてきました。

現在は、新幹線(ひかり号)で東京まで50分弱であるなど、広域交通の結節点、県東部の中核都市として発展を続けています。魅力的で品格のあるひとづくり、まちづくりを進め、幅広い世代の方々や企業から「選ばれる都市」を目指しています。

面積	62.02km ²
東西	11.107km
南北	13.242km
人口	111,483人(平成28年3月31日現在)
世帯数	48,342世帯(平成28年3月31日現在)
気象	年間平均気温: 15.9℃ 年間平均降水量: 1,874.4mm 表日本型で内陸性の気象特性を持ち、比較的温暖な気候



©Yahoo Japan ©ZENRIN



三島市の下水道事業

【事業の概要】

三島市の公共下水道は、市が単独で整備を進めている**三島市公共下水道事業**と静岡県が主体となり、三島市・沼津市・裾野市・清水町及び長泉町の3市2町を事業区域として整備を狩野川流域下水道事業に接続するため、流域下水道事業と一体的に整備している**狩野川流域下水道関連事業**からなっています。

下水道普及率(平成27年度末)	81.6%
水洗化率(平成27年度末)	91.4%

	基本計画	事業計画	整備済面積 (平成27年度末)
単独公共下水道事業	1,026ha	927ha	742.1ha
流域関連下水道事業	796ha	748ha	528.8ha
合計	1,822ha	1,575ha	1,270.9ha

2



三島市の下水道事業

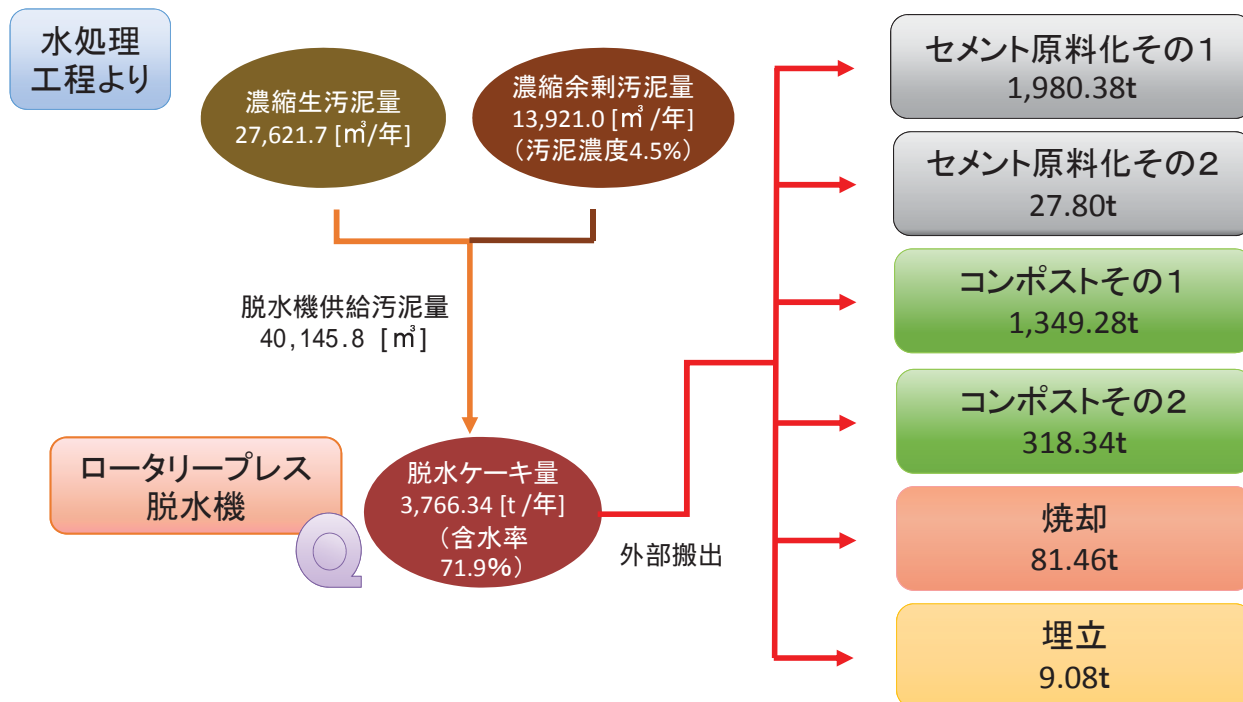
【施設概要】

単独公共下水道事業 三島終末処理場		流域関連公共下水道事業 狩野川流域下水道事業西部浄化センター	
位置	三島市長伏309	位置	沼津市大字原字女鹿塚
敷地面積	39,733㎡	敷地面積	18.39ha
供用開始	昭和51年11月1日	供用開始	平成14年6月 [※] 全面供用開始は平成17年5月
下水道排除方式	分流式	下水道排除方式	分流式
処理方法	標準活性汚泥法	処理方法	標準活性汚泥法
処理能力(日最大)	26,800m ³ /日	処理能力(日最大)	108,000m ³ /日
放流先	一級河川 狩野川	放流先	一級河川 沼川
汚泥処理	濃縮、生脱水		
平成27年度実績		平成27年度実績(三島市分)	
処理汚水量(年間)	8,385,730m ³	処理汚水量(年間)	3,845,440m ³
処理汚水量(日平均)	22,912m ³	処理汚水量(日平均)	10,507m ³
汚泥処分量(年間)	3,766t		
使用電力量(年間)	2,371,340kwh		

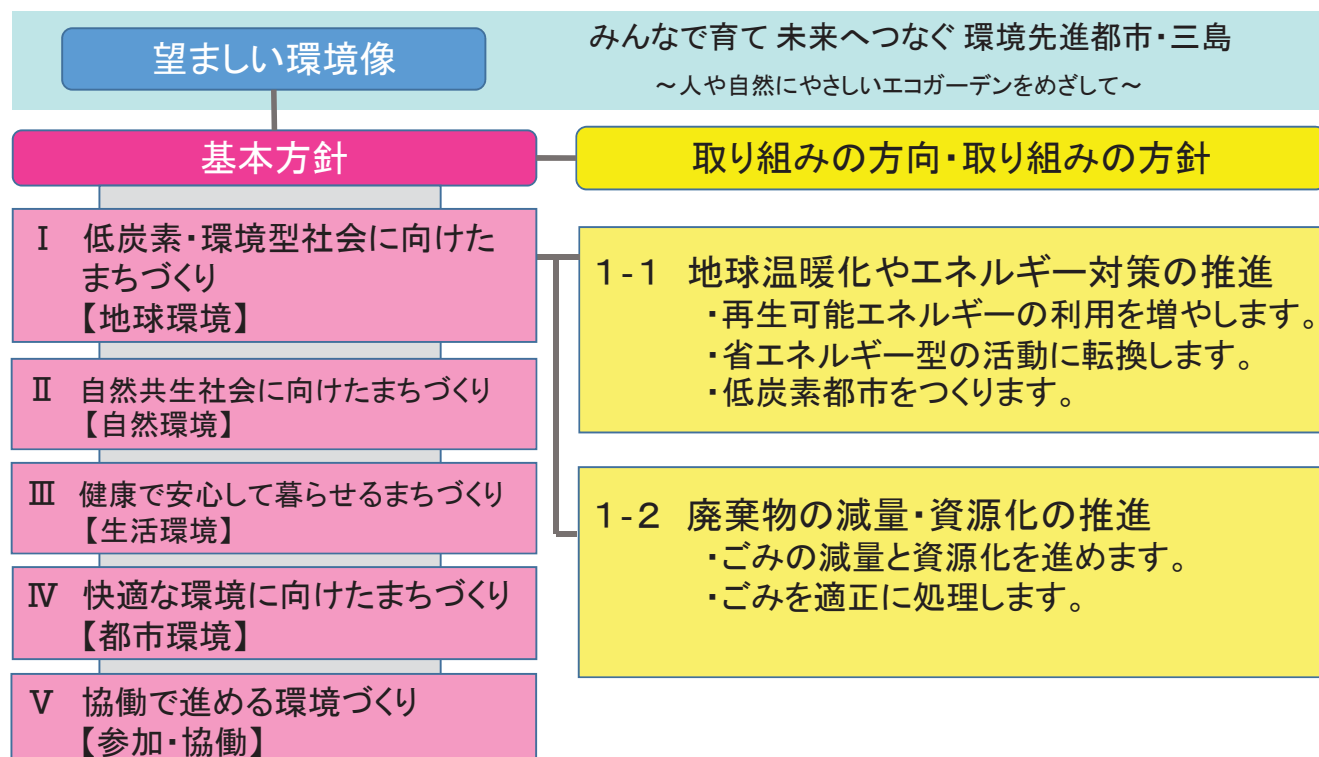
3

汚泥処理の概要

【現在の汚泥処分のフロー図】



第2次三島市環境基本計画



三島市バイオマス資源活用研究会

三島市バイオマス資源活用研究会

三島市に潜在するバイオマスをエネルギー資源として活用することについて、その可能性を研究し、事業化を支援することを目的として平成27年11月に発足。これまで研究会を4回、講演会を1回開催した。

下水部会 下水汚泥、し尿を原料とするバイオマスの活用

新エネルギー製造勉強会 民間企業数社をアドバイザーとして立ち上げ、第1回勉強会を平成28年6月30日に開催した。

廃棄物部会 ごみを原料とするバイオマスの活用

自然廃棄物部会 剪定枝を原料とするバイオマスの活用

- ✓ その他、下水汚泥からの水素製造・利活用に係る実現可能性調査の採択を受け、日本下水道事業団 技術戦略部 資源エネルギー技術課長 細川恒 氏を講師に招き、「水素社会における下水道資源利活用」と題して職員研修を平成28年8月26日に開催した。



水素製造・利用事業の計画

三島市バイオマス資源活用庁内研究会 下水部会 新エネルギー製造勉強会の中で、実現の可能性等を考慮しながら決定する。

